

釧路市教育委員会 令和元年第19回9月定例会会議録

- 1 日時：令和元年9月30日（月）13時30分から15時00分まで
- 2 会場：釧路市教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
（教育委員）
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
（事務局）
高玉学校教育部長、大山教育指導参事、北澤学校教育部次長、
江縁学校教育部次長、藤岡総務課長、小野施設計画主幹、
松本総括指導主事、外崎青少年育成センター所長、山口給食担当主幹、
工藤生涯学習部次長、澤口生涯学習課長、永井美術館長、
佐藤博物館長、古賀動物園長、牧野阿寒生涯学習課長、
伏見音別生涯学習課長
- 4 議事録署名人 種村委員、小出委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

議案第79号 釧路市立幼稚園規則の一部を改正する規則

議案第80号 釧路市立幼稚園利用者負担額等徴収条例施行規則を廃止する規則

報告事項

- (1) 令和元年第5回釧路市議会9月定例会の議決結果について
- (2) 令和元年第5回釧路市議会9月定例会の審議内容について
- (3) キャリア教育の取組について
- (4) キリンの誕生お祝い会開催結果について
- (5) 学校の現状について

【公開案件】

議案第79号 釧路市立幼稚園規則の一部を改正する規則

議案第80号 釧路市立幼稚園利用者負担額等徴収条例施行規則を廃止する規則

(江縁学校教育部次長)

初めに、釧路市立幼稚園規則の一部を改正する規則について報告する。

本規則は、市内に2つあります市立幼稚園の保育内容や保育期間・時間及び入園手続きなどを定めたものであるが、第16条に利用者負担額の事項が規定されており、10月1日から幼児教育、保育の無償化に伴い利用者負担額が徴収されなくなることから、当該条項を削除するものである。

次に、釧路市立幼稚園利用者負担額等徴収条例施行規則を廃止する規則について報告する。

本規則は、前回の教育委員会で廃止のご承認をいただいた釧路市立幼稚園利用者負担額等徴収条例の施行にあたり、必要な事項を定めているものであり、条例廃止に伴い当該規則も廃止とするものである。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された。

【公開案件】 報告事項

(1) 令和元年第5回釧路市議会9月定例会の議決結果について

(2) 令和元年第5回釧路市議会9月定例会の審議内容について

(藤岡総務課長)

令和元年度第5回釧路市議会9月定例会の議決結果について報告する。先の定例教育委員会において、議案として審議、承認いただいた教育委員会に関わる補正予算案と、釧路市立幼稚園利用者負担額等徴収条例を廃止する条例、釧路アイスアリーナ条例等の一部を改正する条例、特定事業契約の変更に関する件、生涯学習部の所管する公の施設の指定管理者の指定の件について、記載のとおり釧路市議会9月定例会において全て原案どおり可決、承認された。

また、釧路市報告第21号の「平成30年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書の提出の件」についても併せて、報告が完了していることを報告する。引き続き審議内容については、学校教育部長と生涯学習部長より報告する。

(高玉学校教育部長)

私からは、令和元年第5回釧路市議会9月定例会、学校教育部に関わる一般質問の概略を説明する。

自民市政クラブ 山口光信議員より、小中学校の少人数学級の課題と対策について質問があり、私より、個別指導・繰り返し指導の徹底等による学習内容の定着、地域との密接なつ

ながりを活かした校外学習・体験活動の充実といったメリットがある一方、児童生徒が競い合いながら学習することや、社会性を高めるといった点が困難になるなどの影響が懸念される。子どもたちにとって最良の教育環境は何かという観点を中心に、まずは教育委員会内部でさまざまな課題を整理していきたい旨お答えした。

日本共産党議員団 西村雅人議員より、給食費の無償化への見解についての質問があり、私より、給食費については学校給食法において保護者の負担を定めており、この法律に基づき、保護者に負担いただいている旨お答えした。

公明党議員団 河合初恵議員より、学校教育公式ポータル「学びと遊び」の充実や、インターネット上で英語の個別学習ができるシステムの周知方法について質問があり、私より、学校教育公式ポータルの掲載基準を見直し、子どもたちや保護者へむけた基礎学力向上のための学習支援等、わかりやすく、親しみやすい情報を届けられるよう協議検討を重ねてまいりたい旨お答えした。

自民市政クラブ 金安潤子議員より、釧路市におけるいじめの認知件数の調査結果に対する分析と、いじめ防止等に関する具体的な対策についての質問があり、私より、平成29年度途中から、道教委作成の「いじめ把握のためのアンケート」の質問事項が、「いじめを受けた」から「いやな思いをした」に変更となったことで、子どもたちがいじめを訴えやすくなり、各学校においては、子どもたちの実態を幅広く把握することが可能となり、積極的な認知が促進されているものと認識している。具体的な取組については、いじめ防止に向けた啓発資料の配布、家庭学習講座や出前授業によるネットモラル教育の推進、いじめ問題に向き合う市民大会「くしろの子ども大集合」の実施、いじめの早期発見に向けた相談窓口の充実等を、実施している旨お答えした。

次に、外部講師を活用した「赤ちゃん学」の出前授業について質問があり、私より、将来の自分を見据えて子育てや乳児との関わり方を考える機会は、大変貴重であることから、まずは出前授業の内容について、情報収集してまいりたい旨お答えした。

次に、未成年の喫煙防止対策と受動喫煙防止対策についての質問があり、私より、警察職員や薬剤師等の外部講師を活用した薬物乱用防止教室や非行防止教室等を実施しており、その中で喫煙の害や恐ろしさ等についても併せて学ぶことで、未然防止にも結び付ける等、学校教育の中においても未成年者の喫煙防止に向けた取組を充実させてきている。今後も、健康推進課と連携を図り、継続して実態把握と喫煙防止に努めてまいりたい旨お答えした。

市民連合議員団 松尾和仁議員より、小中学生の交通安全教育の取組状況と、通学路への防犯カメラの設置促進への見解について質問があり、私より、警察など地域の関係機関・団体等と連携した体験的な交通安全教育を行っている。また、防犯カメラについては、今後とも通学路の安全対策に関する国の支援制度の動向を注視するとともに、学校、地域などと連携を図りながら子どもたちの安全確保に努めてまいりたい旨お答えした。

日本共産党議員団 工藤正志議員より、3費目（PTA会費・生徒会費・クラブ活動費）の就学援助の実施について質問があり、私より、「貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境の整備」や「教育の機会均等」を図るため、『子どもの貧困対策を総合的に推進する

ための大綱』において、就学援助の活用と充実が重点施策の一つとして掲げられている旨お答えした。また、教育長より、大綱においては、学校教育により学力の保障によって貧困の連鎖を断ち切ることも重点施策に掲げており、総合的に教育施策を進めていくことが重要である旨お答えした。さらに、市長より、子どもの貧困対策としての教育施策に関しては、総合的な観点から、教育委員会と協議を重ねて、徹底してまいりたい旨お答えした。

公明党議員団 月田光明議員より、公立夜間中学の開設に向けた今年度の進め方について質問があり、教育長より、夜間中学の設置や学び直しのニーズ、希望する学習内容等を把握するためのアンケート調査の実施に向け、現在検討を進めている。道教委と意見交換の場を設け、さまざまな指導助言をいただきながら、特に潜在的ニーズをしっかりと把握し、さらに検討を深めてまいりたい旨お答えした。

次に、給食費の公会計化について質問があり、教育長より、釧路市においては、釧路市学校給食会を通して、給食費の口座振替での徴収や管理、物資の購入などを行ってきており、教員の負担軽減、保護者の利便性の向上などに努めていることから、学校給食会の存在が公会計化の趣旨である教員の負担軽減の役割を担っているものと認識をしている旨お答えした。

自民市政クラブ 高橋一彦議員より、給食センターの建て替えなどについて質問があり、私より、早期の改築整備に向けて、さらに建設地の検討を深めるとともに、安全安心な給食を提供するという目的を果たし続けられるよう、引き続き現在の学校給食センターの維持管理に万全を期してまいりたい旨お答えした。

共産党議員団 梅津則行議員より、子どもの貧困に係る主な施策の見直しや充実について質問があり、教育長より、学校教育において学力の向上を図り、このことを通じて貧困の連鎖を断ち切っていくという考えで、さまざまな教育支援を進め、子どもの貧困対策につなげてまいりたい旨お答えした。

ここまでの本会議の概略である。

次に、総務文教常任委員会 市長総括について説明する。

公明党議員団 月田光明議員より、授業改善に向けた教員交流についての質問があり、教育長より、先進地域における取組を知り、授業改善の方策を提案することは、教員に刺激を与えることであり、教職員の授業力の向上に結び付く大変重要な取組でもあることから、どのような方法が可能であるか検討していきたいと考えている旨お答えした。また、市長より、現場の先生の声もしっかりと聞き対応していきたい旨お答えした。

次に、中学生対象のふるさとキャリア教育についての質問があり、教育長より、JCとの協働による事業の対象を全市的に広げ、より多くの事業者を巻き込み、来年度以降の取組につながるよう、しっかりと進めてまいりたい旨、お答えした。

次に、各会計決算審査特別委員会市長総括について説明する。

日本共産党議員団 梅津則行議員より、学力向上に関する施策の進捗状況と見直しについて質問があり、教育長より、「授業づくり」・「環境づくり」・「習慣づくり」の3つの視点に基づき「確かな学力向上推進事業」に取り組んでおり、主に小学校においては、基礎学力の定着が図られていることから、本事業が効果的に作用していると考えている。新学習要領でも

「主体的・対話的で深い学び」として一方的に教え込むのではなく、学ぶ意欲を高めながら問題を解決する授業が求められており、今後も更なる授業改善のほか、小・中連携に力を入れながら子どもたちの学力向上に取り組んでまいりたい旨お答えした。

自民市政クラブ 山口光信議員より、給食センターの修繕費と改築について質問があり、教育長より、各給食センターの施設の修繕費は、決して少なくない額であると認識しているが、子どもの安全・安心という給食センターの最大の役割を果たすために必要な経費であると考えている。給食センターのあり方については、しっかりと検討を重ねてまいりたい旨、お答えした。

(川畑生涯学習部長)

私からは、生涯学習部に関わる一般質問等の概略を説明する。

釧路に新しい風 粟屋剛議員より、釧路ウォールアート構想についてご質問があり、私より、アートをまちづくりの一環とした取組を推進しているところであり、多角的なアートの視点で、今後も市民と協働した文化・芸術の振興に努めて参りたい旨お答えした。

新創クラブ 大越拓也議員より、動物園及び博物館が果たす社会的役割についてご質問があり、私より、台北市立動物園交流事業に関し、8月上旬の現地確認において、受け入れ体制が整ったことを確認したことから、天然マリモの貸与を行うこととし、これにより釧路市が誇る国の特別天然記念物「タンチョウ」と「マリモ」が揃うことで、台湾と釧路市の結びつきがさらに深まって行くものと考えていることなどをお答えした。

次に、釧路市動物園における社会教育施設としての位置づけと、アイヌ政策推進交付金事業である「カムイに逢える釧路市動物園整備事業」についてご質問があり、私より、動物園は来園者が多様な生き物たちについて学び、この自然環境を次世代に残すために何が必要であるのかを考えることができるよう、「いのちにふれあい、いのちをつむぐ」役割を担っていくことを基本理念としていること、また、来園者が動物とアイヌ文化との深い関係性の理解を深めるために、アイヌの方々の協力と参画を得ながら、北海道に生息する動物たちとアイヌの暮らしとの関わりを理解できるプログラムや観覧施設の整備を想定している旨お答えし、教育長より、新しい学習指導要領の中で、学校外の教育資源を活用した学習の推進について明記されており、動物園をはじめ博物館、美術館、図書館については、利活用すべき施設として位置づけられている旨お答えした。

次に、台北市立動物園からの動物の譲渡についてもご質問があり、私より、釧路市動物園内で不在となっているオランウータン雄の導入の可能性についても探ったものの、台湾からの霊長類輸入禁止が続いているため、譲り受けは困難な状況にあることなどの経過を説明しつつ、今後も法規制等の動向を注視しながら、譲り受けられる動物についての検討は常に続けてまいりたい旨お答えした。

次に、博物館で展示しているマリモ、小学校における博物館の利用状況、アイヌ文化展示コーナー強化事業についてご質問があり、私より、博物館に展示しているマリモは

天然マリモであり、阿寒生涯学習課マリモ研究室が研究用に採取したマリモを展示していること、小学校の利用については、社会見学や総合的な学習の時間など、学年単位で博物館を利用した釧路市内の小学校は、合計10校となっていること、少人数グループ学習を含めると20校ほどの利用があること、アイヌ文化展示コーナーについては、アイヌ文化を紹介する映像展示を新設する予定であり、今年度は、映像装置の製作を行うものである旨お答えした。

市民連合議員団 松尾和仁議員より、プロ野球公式戦開催の課題として、大規模改修工事が行われた釧路市民球場の評価や、今回の日没コールドゲームなどについてご質問があり、私より、日本ハムファイターズ球団関係者から高い評価を頂いているほか、全道大会などで訪れる選手や観戦する野球ファンからも、景観の良さやプレーのしやすさにおいて高い評価を頂いており、運営面においても人工芝化により降雨後のグラウンド整備の時間が大幅に短縮されていることなどをお答えするとともに、悪天候による日没コールドゲームは大変残念に思っていること、また7月末の平日開催については多くの子どもたちが観戦できる夏休み期間中の開催について今後も要望していくことなどをお答えした。

次に、釧路湿原マラソン大会の熱中症対策についてご質問があり、私より、開会式の中での審判長からの注意事項や、場内アナウンスなどで重ねて注意喚起を行うとともに、各給水所で無理をしないよう声掛けを行い、加えて緊急時に備え、陸上競技場の救護本部と各地点に救護所を設けて看護師や救急隊員などを配置する体制をとった旨お答えした。

次に、ひがし北海道クレインズの観客数についてご質問があり、市長より、今までの日本製紙クレインズの観客数は、1,000人から1,100人で推移しており、今までのファンの方がしっかりとサポートしていることを示すスタートであったと考えており、これからも市役所後援会としてもバックアップしていきながら応援してまいりたい旨お答えした。

次に、釧路大規模運動公園内での喫煙についてご質問があり、私より、市民球場内は全面禁煙としており、屋外に喫煙所を設けて対応していたが、受動喫煙防止が強化されている中であって、物販ブースと現行の喫煙所の位置関係には改善の余地があると認識しているので、大会の主催者である球団や指定管理者と適切な場所について協議をしてまいりたい旨お答えした。

公明党議員団 月田光明議員より、文化財におけるキタサンショウウオの保護についてご質問があり、私より、生息情報や制度認知の不足により、生息域に影響を及ぼす開発行為の可能性は否定できない状況があることから、今年7月、庁内関係各課での情報共有を目的に「キタサンショウウオ庁内ネットワーク会議」を立ち上げ、今後は、このネットワークにおいて収集した調査情報を活用しながら、生息域へ与える影響の未然防止に向けての取組を進めてまいりたい旨お答えし、また教育長より、釧路湿原のキタサンショウウオは大変貴重なものであると考えており、文化財の保護については釧路市文

化財保護条例に基づき適正に行うべきものと認識していることから、文化財に対する理解を深める取組を進め、次の世代に伝えていく努力を続けてまいりたい旨お答えした。

日本共産党議員団 梅津則行議員より、新図書館の評価と課題についてご質問があり、市長より、整備にあたっては、利用者数の目標を平成25年度実績の11万4千人から1.5倍の17万1千人に設定したところ、平成30年度では192,849人の利用で目標よりも多くの市民の皆様にご利用をいただいたところであり、賑わい創出への効果が表れてきている旨お答えした。また教育長より、貸出人数が平成28年度の6万人から平成30年度は9万3千人を超え、図書館の利用者は確実に増えてきており、さらに図書館の魅力を高めていくために、近隣商店街と連携を図る事業を進めている旨お答えし、私からは、ゲートを設けており、そのカウントが入館者の目安としてあるが、一旦ゲートを出て再入館する時は重複している場合があり、実人数と乖離があるため、利用者数を以て過去の利用実態と比較している旨お答えした。

次に、総務文教常任委員会 市長総括について報告する。

日本共産党議員団 村上和繁議員より、体育施設に係わる指定管理業務の評価についてご質問があり、教育長より、大規模運動公園体育施設他屋外体育施設、鶴ヶ岱地区体育施設、氷上競技施設の評価シートの作成にあたっては、それぞれ複数の施設を総合的に評価することとなることから、管理方法や課題が同様であれば、結果として同じ表現になることはあり得るものと考えている旨お答えした。

次に、会計決算審査特別委員会市長総括について報告する。

日本共産党議員団 梅津則行議員から中心市街地に資する事業による「賑わい創出」効果について、図書館等の経費を例示したうえでのご質問や、オープン前後の蔵書充実について、ご質問があり、市長より、図書館やこども遊学館の経費は、施設の機能確保が主たる部分で、中心市街地の賑わい創出を目的としたものばかりではないこと、中央図書館の利用者数は目標を超えていることなどをお答えし、教育長からは、図書購入の考え方として、一時期に蔵書を増やすと陳腐化も一気に進むことから、社会情勢の変化や利用者のニーズに応じ、計画的に整備を図るべく予算編成の中で協議していく旨お答えした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

社会教育施設の利用について、例えば博物館、美術館、動物園などの社会教育施設で子どもたちがさらに利用してほしいという趣旨の質問があったが、そういった施設に個人や学校として出向いて活用することはあると思うが、そこにいる専門的なノウハウを持った学芸員が、各学校に出向き、博物館の財産等を子どもたちに紹介する機会があっても良いのではないかと思う。キットを貸し出しているという話も以前聞いたことがある。校長会等で、どのような活用方法があるのか現場サイドの意見を聞きながら、意見交換することも必要だと感

じた。

(岡部教育長)

現在も動物園、博物館の学芸員による出前授業的なことはやっている。キットを使った授業も取り入れられており、今の質問の趣旨は学芸員等が出かけていけないという話が主だったと思う。動物園、博物館に行っていないという話だったが、それに代替できるような授業は今もやっているし、今後とも学校等と議論をしていきたいと思う。

(種村委員)

学校給食の無償化について、今社会問題として学校給食費の未納が多いと聞いている。実際に無償化している学校はあるのだろうか。

(山口給食担当主幹)

平成29年度の調査で、道内では15の町村、平成30年度には白糠町でも実施している。全国的には約4%程度が実施している。自治体としては、小さな自治体がほとんどで、人口的には3万から7万程度の市、町村では3万以下という形になっている。

(岡部教育長)

いわゆる今の子どもの貧困と呼ばれること、あるいは子どもたちへの福祉政策のあり方という意味だと思う。学校給食を無償化する町もあれば、子どもの医療費を無償化するという町もあり、それぞれの町の子どもの関する施策をトータルでどう考えていくのかということかと思うので、私共としては、ただ単に給食費だけをどうこうという考え方は今は持っていないというような答弁をしてくれているところである。

【公開案件】 報告事項

(3) キャリア教育の取組について

(北澤学校教育次長)

今年度の中学校におけるキャリア教育に係る釧路青年会議所(JC)との取組について報告する。

昨年の12月に地元若手経済人で構成され、釧路市の経済・産業をけん引する団体の一つであり、会員が保護者世代であることから、子どもたちに働くことの意義や厳しさ、生活の糧としての労働の大切さなど、親の立場として心のこもったメッセージを伝えていただくため、JCと連携協定を締結したものである。この協定に基づく取組の第一弾として、去る6月27日に鳥取西中学校において「職場体験」につなげる「ワークショップ」を開催し、4人のJC若手経営者の講話、その後のグループワークによる意見交換を行ったところである。

今後の予定としては、10月に大楽毛中学校、11月に景雲中学校において、同様の講話等を実施することとなっており、将来に対する目標を持ち、さらに視野を広げることを期待している。今後とも一步一步ではあるが、JCとの協働による事業の対象校を広げるよう、また今年度の取組が来年度につながるよう、しっかり進めてまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

去年、大館市の教育長の講演会を聞いたのだが、あそこでやってるのはふるさとキャリア教育、要するに大館のまちを好きになって、大館のまちで生活することを好きになる、そういう大人を育てたい、ということで、大人の方からいろいろな話を聞くという内容だった。今回 J C と連携協定を結んだが、J C のメンバーは自分の企業のために頑張るといことと、地域のために頑張っているという方々ばかりであり、J C の方が子どもたちにメッセージを送るといことは、子どもたちに非常に良いことだと思ふ。先日、市 P 連の研究会議のときに話をする機会があり、釧路を愛して釧路に誇りを持って、成長してもらって、最終的には何らかの形で釧路に貢献できる、そういう大人に成長してもらいたいという願いを持って教育活動をやる必要があるのではないだろうか、子どもを育てる必要があるのではないではないか、という話をしたが、まさにキャリア教育だと思ふ。1 番言いたいことは、釧路で生活している大人自身が、釧路で生活するのはすごく楽しんだ、釧路はすばらしいまちなんだ、という大人の姿を子どもに見せるということが 1 番だと思ふので、そういった仕掛けも今後考えてもらいたいと思ふ。

(北澤学校教育部次長)

子どもたちが釧路について理解を深め、郷土に対する愛着や誇りを育むことはもとより、釧路で働くことの意味や、将来釧路で何ができるか、要するにふるさと教育の視点を加味して進められなければならないと考えている。地域に根差している地元の若手、経済人、やはり J C の方々が適任であるので、今回は 3 校だが、来年度に向けて校数増やしたいと思ふ。単なる職場体験だけではなく、講話を聞いて職場体験につなげて、またそのあと自分たちで将来を考えるような授業ができるよう、検討したいと思ふ。

(小出委員)

子どもたちの未来のことを考えたときに、今の子どもたちのなりたい仕事は昔と変わっていて、Youtuber やゲームクリエイター、e スポーツのプロゲーマーなど、楽しくてお金が稼げる仕事が増えていると思ふ。また、高校生が SNS 等の広告収入で、普通のサラリーマンの月収より多いようなお金を稼いだりできるような時代になってきており、職業観は変わってきていると感じる。その中で、親が子どもと将来の職業について話したりするときにも、何をアドバイスしたら良いかわからなかったり、具体的にどのような職業になったら良いのか、なれるのか、ということや、今ある仕事がなくなったり、今ない仕事ができたり未来も不透明になっており、親も不安に感じていると思ふ。

そういうときに親が望むことというのは、時代の流れに取り残されないで、自立した大人になってくれることだと思ふ。そういったところでキャリア教育というのは、いろいろな職業体験するだけの授業ではなく、どういう大人になるか、どういう人生を送りたいか、送る

か、ということの教育だと思っており、それを地元の実際に働いてる人たちと接することによって、より子どもたち自身が実感できる場になれば良いと思う。そして地元のために役に立とう、というように思ってくれるようになるとさらに良いと思う。そういう意味でキャリア教育というのは、親としても学校と地元の企業が連携して進めてもらえるということには、期待や希望を感じさせるものだと思うので、ぜひ全校で取り組んでもらいたいと思う。

(北澤学校教育部長)

昨年度の実績だと、全部の小中学校で何かしらの体験学習は実施している。特に全中学校においては、ただ単に職場体験だけではなく、地元の経済人の話を聞くとか、聞いた後に職場体験をして、その後ステップアップしていくことが必要だと思うので、臨機応変に進めていきたい。

(種村委員)

釧路の人口がどんどん流出しているという現実がある。例えば大学行って、そのまま東京に就職するケースが多く、釧路に残っている人がほとんどいない。先程キャリア教育の話があったが、高校生にいろいろ話をすることもあり、将来何になりたいんだという時に、医療関係に進みたいと言っていた生徒がいた。なぜ医療関係かというと、中学校のときに、ある病院の現場に行き、そしてレントゲンを見たときに非常に感動したからだと言っていた。そのほかの生徒も結構具体的に言っていた。やはり生徒にいろいろな経験をさせると同時に、そういうようなワークエクスペリエンスであれば、実際の現場の人たちが、いわゆる民間企業みたいに、魅力のあるところをどんどん見せていくというか、ただ単にこういう職場があるんだよ、ではなくて、仕事によって、例えば検査技師であれば、がんの細胞診とって、それを研究して、がんの程度もどのぐらいなのか徹底的に調べる。それを実際に病院に送って、がん患者の程度を調べて、手術をしないかするかを決定する。そういった実体験的なことをどんどん言って、魅力ある職業だなということを生徒に感じさせるようなアピールをすることが大事だと思う。

また、JCについて、自分の会社とはどういう魅力あって、これからどういう展望を持ってこれから会社を伸ばしていくとか、そういった話もどんどん生徒に説明していくことが大事だと思う。

私自身、民間の塾を経営しているが、人材不足で何とか人を雇うということで、札幌でやっている合同企業説明会に参加している。そこで自分の会社の魅力を打ち出すのだが、なかなか寄りついてこない。例えば8人ぐらい座っていて、説明する。実際に、2次面接やりませんか、と言ったら最終的には来ない。我々だけでなく、他にも人材不足を実感してる企業が多いと思う。なので、釧路自体の魅力も、何らかの形アピールすることが必要だと思う。一般の釧路の民間企業は、かなりプラスのイメージを持って釧路を紹介してくれると、すごくやりやすいと思う。若い人たちも釧路に留まる可能性も出てくると思う。キャリア教育は、非常に大事なことだと私自身、実感しているのでよろしくお願ひしたい。

(岡部教育長)

なぜJCと組むかという、要するに今までのキャリア教育というのは、ふるさとを捨てる教育だったような気がする。JCというのは、確実に釧路に根差している若手経営者、20～30代、かつ同時に親世代である。子どもたちの親だということで、JCとジョイントすることが、より実効性のあるキャリア教育を進められるのではないかと思った。

今後は、JCとの連携協定に基づくキャリア教育を進めていきながら、経済界など、より広い相手に訴えかけながら、さらに幅広いキャリア教育を進めていければ良いと思う。

(松尾委員)

キャリア教育というのは職業を選ぶ、というか自分がどういう職に就きたいかを考えていくものだと思う。ただ訪問学習等でいろいろなところへ行って、仕事しているの見てみるということがあるが、仕事の裏も見せたいと思う。表面的なきれいなものをばかり見て懂れて、実際になってみたら裏は汚いものだったなど、実際に起こり得ることだと思う。中学生にしても高校生にしても、まずは職業の種類の多さを知ってもらいたいと思う。

汚い仕事は皆避けていくが、絶対必要な仕事である。そういう社会として貢献できる職業なんだ、自分が人のために働いているんだ、という気持ちが一番大事なのではないかと思うので、ただお金を稼ぐためだけに働くのであれば、**Youtuber**等が良いと思うが、そうではなく、社会のために自分の与えることがどれだけ役に立っているんだ、という自信を持って働くことのほうが大事だと思うので、そういう思いを抱かせるような、いろいろな体験ができれば良いと思う。自分が教えた子どもによく何になりたいかという話をするのだが、高校をこれから受ける子は、既に何となく看護師になりたいだとか、そういった話をするが、それでその高校を選んだかというそうではなく、学力順番やランクで決めている。そのためには何をしたら良いか、夢を追うのであれば、そのために毎日何かをしていかないとダメなのではないか、といつも言っている。自分の夢のために、ここまで努力しなきゃいけないんだということを教えるためには、実際に努力をして夢を叶えた人の話、こんな思いをしてこういうふう到现在やっている、そのためにはこういう努力をしてきたんだ、という話も聞かせてあげたいと思った。先日、まちづくり計画の会議に委員として参加したが、釧路で起業している夏堀さんなどのお話を聞いて、とても面白かった。前向きな方々の話を聞くことも良いのではないかと思う。子どもたちが夢を持って、自分の選んだ職業に自信を思っけて働けるようなこともやってほしいと思う。

(山口委員)

学力について、議会でも、教育委員会でも、子どもたちの学力を向上させなければならないということで、一生懸命取り組んで各学校にいろいろなリクエストをしていると思う。学校では、教育委員会からのリクエストに答えるべく、先生方は一生懸命子どもたちに、ああしてくれ、こうしてくれ、こうやらなかったらだめだ、ということをやっているが、メッセージの発し方というのは非常に大切だと最近感じている。

例えば、学力を向上させるために、うちへ帰ったら家庭学習をしなければならない、だから宿題を出すよ、明日まで必ずやっておいでよ。そういうところに力点を置いて一生懸命取

り組んでいくと、子どもにとって学習することというのは、苦痛になってしまうのではないかという気がする。子どもたちにどんな大人に成長してほしいかという願いを持ったときに、確かな学力、豊かな心、健全な体と、そしてふるさとキャリア教育ということから言えば、釧路を愛する心や、釧路のために何か自分が貢献したい、そういった大人になってほしいという願いを持っていると思う。そうすると、結果としては学力向上に行きつくのだが、学校にリクエストをしなければならないのは授業改善だと思う。どんな授業にしてもらいたいかという、子どもが勉強してわかったという喜びと、学ぶ楽しさを授業の中から実感することだと思う。要するに、学ぶことは苦痛ではなく、自分の成長につながるんだ、ということ子どもたちに実感できるような授業改善であるべきだと思う。その積み重ねで将来展望が見えてくるのではないか。メッセージの発し方を誤って、学力だけでいってしまうと、子どもの受けとめ方も、苦痛、ノルマ、勉強することは大変で面白くない、となってしまう。さらに、その姿を見ていて保護者の反応も微妙に複雑に変化してくる。そんなに子どもたちに厳しくやらせなければならないのか、という発想になる保護者も出てくるかもしれない。頑張っている自分の夢を実現できる子どもに成長してもらうためにも、メッセージの出し方が非常に重要になってくると思う。

【公開案件】 報告事項

(4) キリンの誕生お祝い会開催結果について

(古賀動物園長)

動物園では、毎年、敬老の日とその前日の日曜日を秋の動物園まつりの期間として、行事を行っている。この度、秋の動物園まつり初日である9月15日に、来賓として釧路市動物園協会中山会長を迎え、主催者として市長、教育長、生涯学習部長の参列の中、キリンの誕生お祝い会を開催した。

お祝い会では、市長の主催者挨拶、動物園協会会長の挨拶の後、キリンの仔の命名式を行った。7月27日から8月18日まで行った愛称募集では、1,938件の応募があり、愛称の候補数は1,017件だった。動物園の第一次選考で10件の候補に絞ったのち、教育長、生涯学習部長、および動物園の選考委員で厳選し、愛称を「コハク」に決定した。

コハクで応募された方は無記名者1名を含む20名で、うち千葉紗乃さん8歳を命名式での命名発表者とした。千葉紗乃さんの命名理由は「お母さんのコハネから宝石のようなかわいい子が生まれたから」とのことであった。千葉さんへは、市長から名付け親証明書のほか教育長からキリンのぬいぐるみ等が贈られた。ほかの命名者については、名付け親証明書と記念品を郵送した。命名式終了後、芦野小学校合唱同好会により、お祝いの歌2曲を合唱していただき、盛大なキリンの誕生お祝い会となった。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

この前ニュースで、旭山動物園でキリンが柵に首を挟めたという事故があった。釧路動物園は大丈夫か。

(古賀動物園長)

動物なので、なにが起こるかは分からない。旭山動物園のような構造にはなっていないので、大丈夫だとは思う。

(松尾委員)

以前、関節の靭帯が弱いと言っていたが、今は大丈夫なのか。

(古賀動物園長)

大丈夫である。ただ、安心、安全のためテーピングはしている。

【公開案件】 報告事項

(5) 学校の現状について

(松本総括指導主事)

8月の定例教育委員会で報告した全国学力学習状況調査の結果について、いただいた意見等を中心に校長会にもお話しさせていただき、今後の報告や各学校において授業改善の方向性等についての話をしたところである。それと関連して、検証改善サイクルを見直しについて、12月に行う釧路市標準学力検査を元に、1年間継続したサイクルとなるよう、しっかり取り組んでいくようにという話をしている。既に学校経営訪問の中で取り組んでいる学校も多いが、今後全ての学校で取り組むことができるよう、指導していきたいと話している。

次に、9月の定例市議会本会議の一般質問で出た学力関係の部分を校長会にも報告している。総務常任委員会の部分については10月の校長会で参事より説明する。また、「釧路の子ども大集合」が終了したので、そのお礼をしたとともに、10月11月と、釧路教育センター研修講座が充実しているので、多くの先生に参加いただくようお話しした。

次に、交通事故について報告する。

先日報道にもあったように、市内の小学校で大きな交通事故が起こっている。各学校には交通安全指導の再徹底をメールにて指示しており、児童生徒、保護者への交通安全の意識を深めるようにということと、教職員による見守り等の指導を実施いただきたいということで、今動いている状況である。また、被害に遭った児童が在籍している学校には、対応について連絡を取り合っている状況である。

具体的には警察との連携等を行ったり、事故を目撃した子どもたちがいるのであれば、その子どもたちの心のケアがどうかということも踏まえて、学校とはまめに連絡を取りながら、対応しているという状況である。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

釧路の子ども大集合の会場が変わったが、まなぼつとの大ホールで、上の方まで人が入っており、正解だったと思う。場所を変えたというのは、コーチャンフォー釧路文化ホールがとれなくてまなぼつとに変えたのではなく、全体の規模を考えてこちらのほうが良いのではないかという判断での変更なのか。

(松本総括指導主事)

規模もそうだが、日程の部分で難しかった現状もある。また、参加できる学校が、場所が固定されていたので、そこに近い学校が多かったが、場所を変えることによって、他の学校の参加も見込めるといふところも理由の一つである。

(山口委員)

私もそれを意識して、出席者名簿を見ていたが、まなぼつとになったのに、どうしてこの学校の参加者が少ないのだろう、と思うところは何校かあった。それは課題として押さえてもらいたい。

(松本総括指導主事)

今、アンケート等の反省をまとめている状況であるが、この時期の中学校の学校祭だったり、部活動の関係、また、10月になって小学校の大きな行事、学芸会など時期的なものも踏まえて、場所、時期等、今後どうしていくのか考えなければならないと思っているところである。今回も500名以上参加をいただいているが、少し下降気味なところが気になっている。多くの子ども達が参加できるよう、時期、場所等も併せて考えていきたいと思う。

(山口委員)

中味が充実してきているだけに、出来るだけ多くの子どもたちに参加してもらいたい。

(松尾委員)

高校生が総合司会をやってくれているが、あれがすごく、硬く感じてしまって、もう少し盛り上げてくれるようなメンバーを選出してもらったら、スタートから最後まで入り込みやすいのではないと思う。放送部の子たちは、言葉ももちろんきれいだし、耳にはすごく優しいが、少し硬い気がする。もう少し遊びを入れてほしい気もするが、できないだろうか。

(山口委員)

高校生にアドリブを期待するのは難しいと思う。司会の原稿をもう少し柔らかく作って提供することが必要だと思う。

(松本総括指導主事)

時期的に高校生は期末テストと被る事があり、時間をかけて打ち合わせたり、何回も練習するのが難しい時期であるのが正直なところである。司会の原稿で少し幅を利かせることはできると思う。

(山口委員)

討論会の司会を、前は高校生がやっていたが限界があり、今年は指導主事が一人でやった

ことにより、スムーズさは演出できた気はする。

(岡部教育長)

少し仕切りすぎたなという反省があり、もう少し子どもたち同士のディスカッションがあるべきだったと思っている。現場にはいろいろと検討していただきたい。例えば、このタイトルはどうか。このタイトルで地域の人に来てくださいと言っても、このタイトルでは何の行事なのかわからない。わかる人しか来られない。また、人数が減ってきている状況を、今言われたとおり、土曜日、大半の学校では土曜学習が入っていたり、既に予定が埋まっていた状況は分かっていると思う。校長先生からも言われている。そういう意味では、日程をまず一番に決めて、各学校現場に流してあげることが大事だと思う。それがないと、来られないという状況が続くと思う。それも含めて、さまざまな課題や反省点については、ぜひ現場で検討してほしいと思う。

(山口委員)

各学校の次年度の計画や何か具体化するの、いつごろなのかというのはわかっていると思うので、その前に、来年度はこの日程でやりたいので、教育課程の編成、計画を立てる時に配慮してください、ということをお先に周知できるタイミングを逸しないようお願いしたい。